八松小学校公式ホームページ　https://www1.fujisawa-kng.ed.jp/eyama/

2026 年（令和 8 年）3 月 2 日発行

八松小だより

学校教育目標
「心豊かな人間性を養い、自ら学び
　自ら行動する子どもを育てる」
合言葉「私ってすごい！みんなすごい
やったぞ！できたぞ！の声がいっぱい！」

2026 年（令和 8 年）3 月号

一人ひとりの歩み

校長　瀧谷　典子

三月を迎え、校庭の木々にも少しずつ春の気配が感じられるようになりました。やわらかな日差しの中で過ごす子どもたちの姿に、この一年の成長を重ねながら、年度の終わりを迎えています。

今年度も、保護者の皆様、地域の皆様に温かく支えていただきながら、子どもたちとともに歩むことができましたこと、心より感謝申し上げます。

三学期の授業参観では、この一年の子どもたちの成長を感じていただけたのではないでしょうか。一人ひとりが自分の歩みを振り返り、得意なことをさらに伸ばそうとする姿や、これまで練習してきたことに自信をもって挑戦する姿がありました。そして、友達との関わりの中で、自分の中にある力を引き出してもらいながら、少しずつ自信を重ねていく姿も見られました。

学校での学びは、知識を増やすことだけではありません。自分を知り、仲間と関わりながら、自分らしい歩み方を見つけていく時間でもあります。

本校はコミュニティ・スクールとして、学校だけでなく、家庭や地域とつながりながら子どもを育てる環境づくりを進めてまいりました。地域の皆様による見守りや学習支援、リソースルームでの取り組みなどを通して、「大人がつながることで子どもを支える土台」が少しずつ整ってきたことを感じております。

その一方で、学校や教室に足が向きにくくなっている子どもたちがいることも、私たちは大切に受け止めています。理由は本当にさまざまです。心が疲れてしまうこともあれば、人との関わりの中でうまくいかないこともあります。環境が変わることで、また新しい一歩を踏み出せるようになることもあります。それでも、この一年、たくさんの成長を見てきました。何度か図書室に本を借りに来た子。地域で出会ったとき、「学校には行きたい気持ちはあるんだ」と話してくれた子。見守ってくださっている地域の方に、自分から挨拶をすることができた子。自分のペースで学習に向き合い続けた子。教室に毎日いられることだけが成長ではないのだと、子どもたちが教えてくれました。

その歩みのそばには、保護者の皆様の迷いや葛藤の時間があったことと思います。思うように進めない日が続き、苦しい時間を過ごしてきたご家庭もあったことと思います。そのことも、私たちは、忘れずにいたいと思っています。

どうかこの一年、子どもたちも、保護者の皆様も、それぞれの歩みを重ねてきた自分自身に、そっと「よくやったね」と心の中で声をかけてほしいと思います。速く進めたかどうかではなく、歩み続けてきたことそのものが、大切なのだと思うのです。

そして、子どもたちが日々、心が揺れる中でも、そのまま受け止められていると感じることのできる学校を目指して、私たち大人も歩みを止めずに考え続けていきます。

来年度も、子どもたちが安心して挑戦し、安心して失敗し、安心してやり直せる学校を、学校・家庭・地域がつながりながら、ともにつくっていけたらと思います。

一年間、本当にありがとうございました。

3月の目標

3学期の目標

寒さに負けず体をきたえましょう。

生活目標

１年間をふり返ろう

保健目標

１年間の生活をふり返ろう

給食指導の目標

自分の食生活をふり返ろう

側溝清掃へのご協力のお願い

３月８日（日）に、校内の側溝清掃を実施します。日頃から学校を支えてくださっている「おやじの会」にご協力をいただきながら行います。

子どもたちが毎日過ごしている学校を、安全で気持ちのよい環境に保つための大切な活動です。６年生は家庭科の学習で、地域の方々からボランティア活動について教えていただきました。

「誰かのためにできることを考えること」

「見えないところで支えてくれている人がいること」そんな大切なことを学びました。

学校は、たくさんの方の支えによって成り立っています。今回の側溝清掃も、その一つです。

保護者の皆様、地域の皆様、もしお時間がありましたら、無理のない範囲でご参加いただけるとうれしいです。

【日時】３月８日（日）（予備日３月 15 日）

【時間】９時受付開始、作業９時半～11 時半

【持ち物】軍手

体育委員会主催の「大縄大会」

２月 27 日（金）、朝の活動の時間に体育委員会主催の「大縄大会」を行いました。この大会では、各クラス４分間で跳んだ回数を計測し、学年ごとの縦割り４チームの合計回数で順位を決めました。中学年・高学年は八の字跳び、低学年は、八の字跳びの他に「大波小波」など、縄の向こう側へ行けたら１回と数える方法で挑戦しました。

休み時間や体育の時間に、校庭で練習に励む姿をたくさん見かけました。跳びやすい回し方を工夫する子、入るタイミングで声をかけるなど苦手な友達に優しく教える姿もありました。

「少しでも多く跳んで勝ちたい」「みんなで記録を伸ばしたい」という気持ち。一方で、「引っかかったらどうしよう」「迷惑をかけたくないな」という不安な気持ち。どちらの気持ちもあることでしょう。勝つ経験も負ける経験も子どもたちにとっては大事です。また、勝ち負けや回数だけを目標にするのではなく、失敗しても責めないこと、「大丈夫だよ」「次いこう」と声をかけ合うこと、仲間が安心して挑戦できる雰囲気をつくることです。

大縄は一人では回せませんし、跳び続けることもできません。回す人、声をかける人、挑戦する人、見守る人。みんながいてこその大縄です。

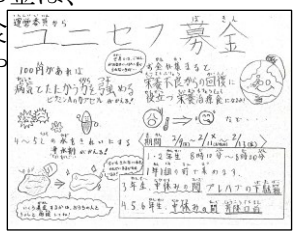
３月の行事予定

配付した八松小だよりの通りです

【4月の予定】

🌎運営委員会によるユニセフ募金活動

２月９日（月）から 13 日（金）までの５日間、運営委員会の子どもたちが中心となり、校内でユニセフ募金活動を行いました。ユニセフは、世界の子どもたちの命や健康、学びを守るために活動している国連の機関です。紛争や災害、貧困などの影響で、十分な食べ物やきれいな水、医療、教育を受けることができない子どもたちを支援しています。募金で集まったお金は、



・栄養不良の子どもへの栄養補助食
・安全な水を確保するための井戸や給水設備
・ワクチン接種などの医療支援
・学校に通うための教材や学用品

などに役立てられます。

運営委員会の子どもたちは、事前にチラシを作成して配付したり、ポスターを作成して校内の壁に掲示したりして、全校に呼びかけました。「なぜ募金が必要なのか」「どのように役立てられるのか」を自分たちの言葉で伝えようとする姿が見られました。

期間中は、多くの子どもたちが進んで募金に協力してくれました。世界のどこかで困っている子どもたちのことを思い、自分にできることを考えて行動する姿に、子どもたちの温かい心を感じました。自分の行動が、誰かの未来につながっています。これからも子どもたちが、主体的に取り組む活動を大切にしていきます。

生活委員会　落とし物を減らす取組

生活委員会では、校内の落とし物がなかなか減らない現状を受けて、新たな取組を行いました。

これまでも、落とし物を減らそうとポスターを作成し、校内に掲示してきました。　目を引く素敵なキャッチコピーで、多くの人の心に届く工夫がされていました。しかし、それでも落とし物は思うようには減りませんでした。

そこで子どもたちは、「直接伝えたほうがいいのではないか」と考え、各クラスを回って説明することにしました。落とし物コーナーの写真を見せながら、今どれだけ多くの落とし物が持ち主を待っているのかを伝えました。

説明を聞いた子どもたちからは、「服のタグに名前を書いたらいいんじゃない？」「まだ使えるのに、もったいないなあ。」といった声があがり、自分にできることを考える姿が見られました。

一つ一つの持ち物は、保護者などが用意してくださった大切な物です。物を大切にすることは、自分を大切にすることにもつながります。

生活委員会の子どもたちの働きかけをきっかけに、学校全体で「物を大切にする心」を育てていきたいと思います。

6年生家庭科　地域とつながり、自分にできることを考える学習

６年生は家庭科の授業で、「地域の中の一員として自分に何ができるか」を考え、実践につなげる学習に取り組んでいます。

２月 17 日(火)には、辻堂まちづくり会議の皆様と市民センターの方々にご協力いただき、地域で行われているボランティア活動について話を聞いたり、体験をさせていただいたりしました。

認知症の方への対応については、地域の皆様が寸劇で場面を再現してくださいました。財布をなくして不安になっている場面や、「家に帰りたい」と落ち着かなくなる場面などを通して、どのような声かけをすれば安心につながるのかを、具体的に教えていただきました。相手の気持ちを受け止めること、否定せずに話を聞くこと、ゆっくりと優しく関わることの大切さを、子どもたちは学びました。

また、高齢者疑似体験では、手足に重りをつけ、視野を狭めるゴーグルや耳が聞こえにくくなる器具を装着し、友達に介助してもらいながら段差や坂道を歩きました。体の動きが制限される不自由さを体験し、日常の何気ない動きにも大きな困難があることを実感しました。

さらに、車椅子の操作訓練も行い、上り坂と下り坂では押し方が異なることを体験しました。安全に配慮することの難しさと大切さも学びました。

体験を通して、ボランティアで大切なことは、困っている人の気持ちになって考えること、寄り添う気持ちをもつことだと教えていただきました。

子どもたちの中には、「海岸の清掃ボランティアをしたことがある」「電車で席を譲ったことがある」と話す子もいました。身近なところにも、自分にできることがあります。

まずは困っている人に気づくこと。そして、寄り添う気持ちをもって勇気を出して一歩踏み出すこと。その大切さを、地域の皆様から学ばせていただきました。３月には、ボランティアの皆様を家庭科室にお招きし、おやつ作りを一緒に行い、交流を深める予定です。地域の方々とともに学ぶ６年生の歩みは、これからも続いていきます。

5年生と3年生の交流会
～藤沢すごろくでつながる学び～

３年生は２学期に社会科で市の特徴について学習しました。藤沢市の自然や名所、産業などについて調べる中で、「もっとみんなに藤沢の魅力を知ってもらいたい」という思いがふくらみました。そこで、学んだ知識を生かして「藤沢すごろく」を作り、５年生に体験してもらう活動を２月から３月にかけて行います。

マスの一つ一つに、藤沢の魅力や特徴が分かりやすく表現されており、楽しく遊びながら学べるすごろくを作っています。交流会では、５年生は、３年生からルールの説明をよく聞き、３年生と一緒にすごろくを楽しみます。すでに実施した３年生は、自分たちの作品を喜んでもらえたことで、嬉しそうな表情を見せていました。学んだことを形にし、伝えることで学びはさらに深まります。そして、学年を越えた温かな関わりが、子どもたちの心を豊かに育てていきます。これからも子どもたち自身が伝え合い、関わり合いながら学びを広げていく姿を大切にしていきたいと思います。

４年生と２年生の交流会
～学びと笑顔のバトン～

２学期に、２年生は生活科の学習で「おもちゃのお店」を開きました。身近な材料を工夫して作った手作りおもちゃを用意し、お店屋さんとしてお客さんを迎えました。交流に訪れた４年生は、遊びを楽しみ、２年生もとても嬉しそうな様子でした。

そして今度は、４年生からのお誘いです。運動会で踊った表現運動を、２年生に教えてくれました。４年生は、一つ一つの動きを分かりやすく伝えながら、笑顔で優しく声をかけていました。その温かな関わりのおかげで、２年生は短い時間の中でも自信たっぷりに踊れるようになりました。

上級生が思いやりをもって関わり、下級生が安心して挑戦する。そんな姿が見られる交流の時間となりました。学年を越えた関わりの中で、子どもたちは優しさや自信、人とともに活動する楽しさを学んでいました。

３年生学区の歴史を巡るウォークラリー

２月 24 日（火）、３年生が、学区の歴史的なポイントを巡るウォークラリーを行いました。辻堂まちづくり会議の皆さんがご協力くださり、それぞれの場所で由来や歴史について丁寧に説明をしてくださいました。子どもたちは少人数のグループに分かれ、保護者の皆様に見守っていただきながら、地域を歩きました。学区にある神社では、夏祭りで太鼓を演奏している子どももいます。しかし、改めて神社の歴史や成り立ちを詳しく教えていただくと、「初めて知った」という声も聞かれました。普段、遊び場にしている場所にも歴史があること、お寺がどのような願いのもと、いつ建てられたのかなど、住んでいる街の奥深さに触れる機会となりました。自分たちが暮らしている地域には、長い年月の中で大切に受け継がれてきた思いがあります。今回の学びは、辻堂まちづくり会議の皆様、辻堂市民センター、そして見守ってくださった保護者の皆様のご協力があってこそ実現しました。心より感謝申し上げます。

第５回 学校運営協議会を開催しました

２月５日(木)、今年度最後となる第５回学校運営協議会を開催しました。はじめに、今年度の学校評価アンケート結果について資料を提示し、校長より説明を行いました。その後、「今後も継続してほしいこと・大切にしたいこと」と「未来志向で改善していく点」について協議しました。また、学校評価の結果を踏まえ、「子どもが困ったときに安心して相談できる学校」にするために、学校・地域・家庭それぞれにできることは何かをテーマに、３～４人の小グループに分かれて意見交流を行いました。

■継続してほしいこと・大切にしたいこと

協議では、次のような取組を今後も大切にしてほしいという意見が多く出されました。

・学年全体、学校全体で子どもを育てていく考え方
・高学年教科担任制など、組織的な取組
・子ども同士が協力し、助け合う姿
・努力や頑張りを認める姿勢
・いじめのない学級づくりや誰一人取り残されない授業づくり
・保護者の相談への迅速な対応
・地域と連携した教育活動
・様々な想定での避難訓練や防災への取組
・相談機関との連携
・教職員の研修や研究の機会

そして、最も多くのご意見が寄せられたのがリソースルームの取組でした。教室に入りづらさを感じている子どもが安心して過ごせる居場所を設け、無理のない形で学校とつながり続けられる取組を、今後も大切に継続してほしいという声が多く上がりました。

■「安心して相談できる学校」にするために

「なぜ子どもは相談できないのか」という視点から、率直な意見が出されました。

・怒られると思っているのではないか
・誰にも分かってもらえないと思っているのではないか
・恥ずかしいと感じているのではないか
・伝え方が分からない子もいるのではないか

その上で、次のような提案がありました。

【学校として】
・道徳や総合的な学習の時間で「相談することは恥ずかしくない」と伝える
・多くの教員が関わる体制（教科担任制・異学年交流）を活かす
・日々の挨拶や声掛けを大切にする
・何気ない様子から変化に気付く

また、相談への対応は行われていても、子どもの受け止め方の違いや、個人情報・守秘義務の関係で共有できない場合もあり、取組が見えにくい難しさがあるのではないかという意見も出されました。

【地域として】
・登下校や学校での見守り　・交流の場づくり　・顔の見える関係づくり

【家庭として】
・子どもの話を否定せずに聞く　・目を見て会話する時間を持つ
・保護者同士のつながりを大切にする　・学校との情報共有を行う

挨拶や日々の何気ない会話が、安心して相談できる関係づくりにつながるという意見も多く出されました。

■ 協議を通して

今回の協議では、これまで大切にしてきた取組を改めて確認するとともに、「子どもたちは、なぜ相談できないのか」という視点から、多角的な意見をいただくことができました。多くのご意見が出されたこと自体が、次の一歩につながる大切な視点であると感じています。いただいたご意見を今後の学校づくりに活かし、学校・地域・家庭がともに子どもを支える環境づくりを進めてまいります。